

だんないの道

第33号

2017年12月28日発行

発行者：NPO法人CIL だんない

代表者：美濃部裕道

連絡先：〒529-0423 滋賀県長浜市木之本町
千田681番4

TEL : 0749-50-3639

E-mail : dannai@ae.auone-net.jp

代表あいさつ P1 2017年を振り返って P2
地域で生きるぞ! P3 地域生活へと P4
活動報告 P5 コラム ヨリの雑記帳 P6

代表あいさつ

この『だんないの道』の発行日は12月28日ですが、読んでいただいているのは年が明けてしまっているかもしれません。年末のご挨拶をするか、新年のご挨拶をするか迷うところです。今回は年末に読んでいただいているということにして、筆を進めます。

振り返ってみると、新事務所移転の決定・改修に向けた工事があったり、JILの若手当事者団体のユースパワernetワークの方々をはじめ全国から多くのお客様が来られたり、県条例の制定に向けた集会を県内各地で開催したりと、いろいろなことがありました。年々、活動量が増えていることは報告していますが、今年も充実した日々を送ることができました。

職員も4名の介助スタッフが新たに加わりました。また、活動員から研修生に昇格した当事者もおり、より強力な体制を作ることができました。アパートを借りて自立生活に向かおうとする者も出てきました。『自立生活への志をもとう』という年間スローガンにふさわしい1年を過ごすことができた気がします。

2018年は、どんな年になるでしょうか。6月には新事務所が完成します。秋頃には木之本から米原までをウォーキングして障害者差別解消法を啓発するイベントを計画しています。さらに、来年度中には滋賀県障害者差別条例が制定されると見込んでいます。このような意味では、だんないにとっては第1ステージから第2ステージへと移りゆく1年になると展望しています。

そんな1年を着実に歩んでいくためには、本来大切にしている「指示介助」、「当事者主権」、「自立生活」といった基本を改めて確認することが必要だと思います。その基本を踏まえた上で、新しい活動や取り組みを始めるべきだと思います。だからこそ、もう一度だんない設立当初の初心に立ち返り、熱い思いを共有したいのです。2018年は、第2ステージのスタートとして、初心を思い返す時間を大事していく1年にする考えです。

『さあこれからだ、地域生活!』。2018年の年間スローガンです。このスローガンには、この7年間を振り返りながらも、次のステップに進んでいきたいという願いを込めました。くわしくはブログにて説明しますが、来年はこの願いを常に思い返し、今年のような充実した日々、「だんないの道」を歩み続けたいです。

2017年も本当にお世話になり、ありがとうございました。来年も変わらぬご支援のほど、よろしく願い申し上げます。よいお年をお迎えください。

美濃部 裕道

2017 年を振り返って

大橋 早香

私は、今年で短大の2回生です。今年は昨年と比べて、大学に対して必要な配慮について話し合えたと思います。昨年は、入学して人間関係を築くことや、環境に慣れることに精一杯でした。しかし、今年は人間関係もある程度でき、友達にノートテイクや出席管理（私の大学では、壁に設置された機械に自分のカードをかざすことで出席となります。）などを手伝ってもらえるようになり、余裕が持てるようになりました。

余裕が持てるようになったことで、それまでよりも力を注げたことがあります。それは、合理的配慮を仲間と一緒に求めることです。大学の授業や試験での配慮を他の障害を持つ学生と一緒に求めることができたことは、私にとって嬉しいことでした。そのように配慮を求めていくにつれて、先生たちの対応も少しずつ変わっていています。特に最近印象的だったのは、ある講義で先生にテストで時間延長をお願いした時のことです。その先生の講義のテストは筆記試験でした。私は、書くことが苦手ですばらく字を書いていると手が動きにくくなっていきます。そうしたことから、まずは試験時間延長をお願いしました。すると、時間延長はしてもらえることになり、さらに「書くのが難しいということなら、パソコンを持ち込んでも良いですよ」と言ってもらえました。時間延長のお願いの後にパソコンの持ち込みもお願いしようと思っていたのですが、先生から提案してもらえた時は正直驚きました。なぜなら、今まではテストの時間延長を求めると、「みんなと不平等だから、あなただけ延長はできない。」と言われていたからです。だから、今回のように時間延長だけでなく、パソコン持ち込みまで提案してもらえると、思いませんでした。

学校に色々な配慮を求める中で思ったことがあります。配慮を求める時に、最初は1人で求めています。当時は、自分に必要なことを求めているのだという意識はありつつも、自分だけ我慢していれば良いのではないかと、言わなくても変わらないのではないかと感じていました。もう諦めようかと思っていました。ですが、ある会話でそんな私の考え方は変わりました。1回生の春学期のテスト前、私と同じ学年の障害のある学生に「授業で困っていることはある？」と聞きました。すると、「みんなと同じ試験時間では、テストの時にしんどいと思う」ということでした。その言葉で、配慮を求めている人は自分だけじゃない、他の人も配慮を求めているのだと改めて気づけました。その時に「一緒に先生にお願いに行こう」と提案し、2人で先生にお話に行きました。その後も、色々な先生に配慮を求めていきました。少しずつ反応が変わっていき、求めた配慮はすぐにしてもらえるようになっていきます。

大学での経験を通して、配慮を求めることは自分だけでなく、自分以外の人も講義やテストが受けやすくなるのだということをもっと感じました。これは、大学だけではなく、交通機関や就職など、どんな場面でも同じだと思います。私は、人に何かを伝えるということは得意ではありません。でも、自分が何かを伝えることで自分以外の障害がある人も合理的配慮を求めやすくなるかもしれない。そういう気持ちを持って、配慮を求めるときは自分の言葉で伝えていきたいです。

地域で生きるぞ！

谷口健人

先日、県内の大学で、ある講義のゲスト講師として障害者入所施設のことをお話させていただく機会がありました。僕は「短期入所」で3～5日間、施設に入所した経験が何度かあります。そういうことで、入所施設での経験を話してほしいとゲスト講師の依頼をいただきました。最期に短期入所を利用してからだいぶ年月が経っているのに、詳しく話ができるかわからないなあと思いましたが、話をするために過去の記憶を思い出しながらパワーポイントで資料を作っていると、たくさんエピソードが思い出されてわれながら驚きました。

講義では、施設に着いて早々「荷物チェック」といって施設の職員さん（異性の場合もありました）にカバンの中身や着ている服の色や柄、下着（パンツ）まですべて見られて記録をとられたこと、持ち物（とくに衣類）に名前を書かなければならなかったり、服用していた薬を施設の看護師さんに預けるように求められたり、すべてを管理されて、まるで病院のようで嫌だと思ったこと。食事の時間が職員さんの勤務の都合に合わせて決められていて（昼は12時に食べて夕は16時！）、食事は30人以上の入所者を5、6人だけの介助職員で介助するので満足な介助は受けられず、食事中は介助職員が各テーブルをひっきりなしに動き回ってとても慌ただしく、ゆっくり食事できる雰囲気ではなかったこと、「早く食べられるから」ということでご飯に刻んだ漬物や味噌汁をかけて食べることを促されたり、勝手にかけられたりしたこと。18時までという門限があり、会社で遅くまで仕事をしたり、飲み会に参加したり、遅くまで外出して趣味を楽しむといった社会的な生活はできないこと。施設での入浴は週2回と決まっていて、異性介助も当たり前のように行われていて、他の入所者と一緒に入ることもありプライバシーは守られていないこと、脱衣所の前に順番に並んで待って、いっせいに服を脱がされて体を洗われて、5、6人が脱衣所の床に寝かされて下半身を隠すこともなくいっせいに体を拭かれて服を着せられて出されていくその光景は、人間の入浴というより「洗体工場」のラインに載せられて仕上げられていく製品のように感じられたことなどをお話させていただきました。「障害者は入所施設でお世話していただいたほうが、何かあっても安心ではないか。それが本人のためではないか。」という世間の声がある中で「入所施設という排除・隔離の構造そのものが人間として生きられなくしている。本心から入所施設での暮らしを望む人などいない！」ということを伝えたかったのです。そして、話を聴いていただいた学生さんたちの感想レポートを読ませていただくと、僕の思いは一定伝えることができたようで、安堵しました。

今回お話をさせていただいて、あらためて「入所施設は人が暮らす場所として本来あるべきではなく、みんなが施設ではない地域の中で自分らしく生きていける社会を作らなければならない」と確信しました。

2017年最後の活動日にだんないの道の原稿を書きながら、「みんなで地域のなかで生きる！」という決意を新たにしています。2018年もがんばります！

地域生活へと

小里和也

僕は、11月15日から自立生活を始めることができました。

今、週2回ぐらいのペースで、自立生活をしています。部屋に入るには階段があるため、スロープを設置する必要があります。そのため、ご縁があり、ある方にスロープを作っていただきました。そのおかげで、難なく入ることができています。ありがとうございます。

アパートに帰ったら、着替えを済ませ2人介助でベッドへ移ります。その後、1人介助になります。夜間は、1時間に1回体の位置を変えます。朝になり、2人介助で車椅子、またはトイレ用の椅子に移ります。そして、支度を済ませた後、だんないに行きます。まだまだ24時間介助が毎日ではできる体制ではありませんが、このように、週2回、自立生活をしています。これから続いていく自立生活がとても楽しみです！

このように自分の生活が始められたのは、「自立をしたい」という強い気持ちも大切だけど、それだけではなく、仲間が存在、言葉も大切だとあらためて感じたからです。僕は何度も本当に自立生活ができるのかと不安になりました。でも、実際に自立生活をされている方の家におじゃまさせていただいたり、自立生活の楽しさを伝えてもらったり、たくさん背中をおしてもらったおかげで、自立へと踏み出すことができました。

そして、もう1つ大きかったことは、今年のだんないスローガンである「自立生活への志をもとう！」という言葉の存在です。このスローガンを毎日目にして意識することで、すごくモチベーションが上がり、「自分はぜっ
たい自立生活をする」という気持ちがブレることなく、ここまでくることができました。だから、自立生活を始められた自分がここにいます。

まだ、始まったところですが、これから続いていく自立生活を、自分がやりたいことをして、“自分の時間”を過ごしていき、施設ではなく、自分らしくみんなと地域生活をしていきます！また、たくさんの仲間から自立生活の楽しさを伝えてもらった様に、今度は僕が“自立生活の楽しさ”をたくさんの方に伝えていきたいです！

活動報告

12月2日	ひだまり講演 居宅介護職員初任者研修②	美濃部 大橋
3日	ときめきパーティー	谷口
	障害のある人もない人も暮らしやすい共生社会について 考えてみませんか？	美濃部 谷口 大橋
5日	ピアカウンセリング委員会 in かぼちゃ	美濃部 小里 大橋
6日	長浜米原しょうがい者自立支援協議会事務局会議 in 長浜市役所	美濃部
7日	高月中学校 講演	美濃部
11日	ケース会議	美濃部
15日	米原市障がい者計画等審議会	美濃部 大橋
16日	ピアカウンセリング講座 in ぼてと	
20日	長浜米原しょうがい者自立支援協議会運営委員会	美濃部
21日	長浜米原しょうがい者自立支援協議会県条例検討プロジェクト in 長浜市役所	美濃部
	長浜米原しょうがい者自立支援協議会 重介護・医療ケア検討部会 全体会議 in 長浜市役所	市川
25日	長浜米原しょうがい者自立支援協議会 権利擁護部会 in 長浜市役所	美濃部
26日	SCIL 訪問	美濃部 大橋
27日	長浜米原しょうがい者自立支援協議会 当事者サポーター推進委員会 in 長浜市役所	美濃部 谷口

ヨリの雑記帳（32）

年末の出張ラッシュも終わり、ようやく今年の仕事が無事に終わりを迎えられそうな予感がする今日この頃である。まったりと、今年1年を振り返って考えている。

先日、博多の地下街でヘルパーさんと朝ご飯を物色していた時、私の正面から一人の男性が来られた。男性氏いわく「車椅子は邪魔だから、道の端っこを歩け、中央は歩くな！」と、おっしゃった。早朝の地下街なので、通路は広いし、人もまばらな状態であった。閑散（かんさん）とする地下街の通路で男性氏の怒声だけがこだまする。寝起きの私だったが、その怒声に頭が完全に覚めた。かなりの早朝だったので、眠い目をこすりながらの朝ご飯の物色だったけど、まさか朝から怒声が飛び交うとは想像だにできなかった。

思っている、口には出さないことは、確かに、あるだろう。でも、それが「どけ！どけ！」と口に出してしまうと、非常に異様な光景になってしまう。ボク自身、同様の視線や空気を感じたことは幾度となくあった。だが、音声でその言葉を聞いた経験は数が知れている。あんなに広い通路なのに、もちろん通行の邪魔になるはずがない。ここからは、ボクの想像だが、要するに視界に入るなど言うことではないだろうか。

露骨過ぎる表現に言葉に窮（きゆう）しながらも、ボクも、ヘルパー氏も、必死の応戦をしたが、怒声を発しながらも、エスカレーターを使って逃亡を謀（はか）られた。瞬間の出来事であったが、それでも途中からは地下街の警備員氏もその光景を見ておられた。でも、こちら側に参戦してくれるはずもなく、「何かございましたか」とお決まりの質問で始終した。質問が終わり、警備員氏はようやく男性氏を追って地上階にエスカレーターを駆け上がるが、もちろん男性氏は見つからなかったわけである。

これ以来、地下街を歩く時、かなり恐怖を感じるようになっていく。もちろん、それは歩き慣れた大阪の地下街でも同じである。福岡という地でのたった一言であるが、思いのほか自分自身の行動を縛（しば）ってしまう出来事になったのである。

「自立への意思」といっても、社会的出来事によってその意欲が左右されることが改めて感じる事ができた。意思というのは、自分自身だけで決める個人的なものとはよく誤解されがちであるが、むしろ社会的なものによって形成されるものであろうといっても過言ではないだろう。だからこそ、ボクたちは社会と共に生き続けていることを主張し続けなければならないのかもしれない。

（よりたか つねのぶ）

NPO 法人 CIL だんない

〒529-0423

代表 美濃部裕道、副代表 市川正太

滋賀県長浜市木之本町千田681番4

事務局長 頼尊恒信、理事 横山卓馬

TEL : 0749-50-3639

URL : <http://cil-dannai.jp/>

FAX : 0749-50-3961

E-mail : dannai@ae.auone-net.jp

郵便振替口座番号：ゆうちょ銀行木之本支店 00940-2-209115